

3.経営成績及び財政状態

(1)経営成績

当中間連結会計期間のわが国経済は、民間設備投資が安定的に増加し、個人消費も緩やかに持ち直すなど、景気は堅調に推移しました。

当社グループを取り巻く関連業界におきましては、主な需要先である鋳造業界は、自動車の生産が伸びたことに、総じて生産高は増加しました。

耐火物業界につきましては、需要は増加したものの、原材料費の高騰が依然として続き、収益圧迫の要因となり、経営環境は厳しい状況で推移いたしました。

このような環境のもと、当社グループは「創造性ある革新型企業」を目指し、本年4月スタートした新中期5ヶ年計画に基づき、主力製品および新製品の拡販活動を営業・技術の密接な連携のもとに、全社一丸となって展開いたしました。低利益事業からの撤退が影響し、当中間連結会計期間の売上高は45億3千9百万円と前年同期比1.0%の増加に止まりました。

一方、利益面におきましては、売上高が若干増加したにもかかわらず、原材料費の値上がりが影響し、連結経常利益は2億円と前年同期比1.0%の減少となり、連結純利益は役員退職慰労金の特別損失計上の影響し6千1百万円と前年同期比41.3%の減少となりました。

a)分野別売上

鋳造業界向けでは、自動車および機械関連企業が生産が増加したことにより、売上高は27億3千9百万(売上高比率60.3%)と前年同期比11.7%の増加となりました。

鉄鋼業界向けでは、鉄鋼生産が僅かながら増加したことにより、売上高も6億3千7百万円(売上高比率14.0%)と前年同期比1.1%の増加となりました。

海外向けでは、中国への黒鉛ルツボおよび韓国へのアルミ用定形耐火物の販売が伸びましたが、一部東南アジア向けの低利益アルミ溶解設備の販売提携を解消した影響により、海外関連売上高は、輸出およびロイヤリティー収入合計で3億6百万円(売上高比率6.8%)と前年同期比32.2%の減少となりました。

新分野として取り組んでまいりました溶解炉・環境関連市場向けでは、昨年度のような大型スポット工業炉の受注がなかったことにより、売上高は7億1千2百万円(売上高比率15.7%)と前年同期比13.2%の減少となりました。

不動産賃貸事業につきましては、大阪工場貸倉庫の新テナント入居により売上高は1億4千5百万円(売上高比率3.2%)と前年同期比4.3%の増加となりました。

b)セグメント別売上

セグメント別の売上高は、耐火物などが前年同期比4.0%増加の34億5千9百万円(売上高比率76.2%)、営業利益は2億5千3百万円となりました。

上記新分野中心のエンジニアリングは前年同期比9.6%減の9億3千万円(売上高比率20.5%)、営業利益は5千4百万円となりました。

不動産賃貸事業は、前年同期比7.9%増の1億5千万円(売上高比率3.3%)、営業利益は9千3百万円となりました。

(2)財政状態

当中間連結会計期間において、営業活動によるキャッシュフローは、前年同期と比較して4億4千5百万円減少し8千8百万円となりました。主な要因として、退職給付引当金の減少1億6百万円、売上債権の増加2億6千4百万円、棚卸資産の増加1億4千7百万円、法人税等の支払額の増加1億6千5百万円があげられます。

当中間連結会計期間において、投資活動によるキャッシュフローは、前年同期と比較して5億6千6百万円増加し、7千万円となりました。主な要因として、長期性定期預金の戻入による収入2億円があったことと、当中間連結会計期間において定期性預金払込による支出3億2千3百万円および連結の範囲の変更に伴う子会社株式の取得等による支出9千2百万円がなかったことがあげられます。

当中間連結会計期間において、財務活動によるキャッシュフローは、前年同期と比較して8億3百万円増加し、9千4百万円となりました。主な要因は、長期借入金の返済による支出が1億3千2百万円減少したことおよび短期借入金の純増加額が7億8千7百万円増えたことによるものであります。

[財務指標の推移]

	第164期 平成15年 9月期中	第164期 平成16年 3月期	第165期 平成16年 9月期中	第165期 平成17年 3月期	第166期 平成17年 9月期中
株主資本比率	25.1%	23.9%	25.5%	27.8%	27.5%
時価ベースの株主資本比率	20.0%	35.9%	28.5%	41.9%	46.3%
債務償還年数	-	-	-	4.0	-
インタレスト・カバレッジ・レシオ	2.6	-	9.5	11.6	-

(注) 株主資本比率 : 株主資本 / 総資産

時価ベースの株主資本比率 : 株主時価総額 / 総資産

債務償還年数 : 有利子負債 / 営業キャッシュ・フロー (中間期は記載しておりません)

インタレスト・カバレッジ・レシオ : 営業キャッシュ・フロー / 利払い

各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により算出しております。

株主時価総額は、期末株価終値 × 自己株式控除後中間期末発行済株式数により算出しております。

有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている借入金および社債の合計額を対象としております。

また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の支払額を使用しております。

(3) 当期の利益配当

当中間期の利益配当金につきましては、利益水準および今後の厳しい経営環境を考慮いたしまして、見送らせて頂く予定であります。

(4) 通期の見通し

今後の当社グループの関連業界の見通しは、景気の回復基調が続き、民間設備投資が堅調に推移するものと予想されますが、耐火物業界につきましては原材料価格の高騰がまだ続くことなどにより厳しい状況が続くものと考えられます。

各市場・分野に対する通期の活動目標は次のとおりであります。

1. 鑄造業界および新分野の溶解炉・環境関連市場に対しましては、主力製品である黒鉛ルツボとルツボ式連続溶解保持炉の更なる性能向上に努め拡販を目指すとともに次世代商品の開発を推進してまいります。
2. 海外市場に対しましては、特に中国の合弁会社への資本参加とライセンス供与によるルツボ式連続溶解保持炉と不定形耐火物の中国市場進出に注力してまいります。
3. 不動産賃貸事業につきましては、本社賃貸ビルの安定的収益を維持しながら、当社の土地の有効利用を推進してまいります。

通期の連結業績の見通しにつきましては、売上高93億円、経常利益4億1千万円、当期純利益1億6千万円を見込んでおります。

また、単独業績の見通しにつきましては、売上高86億円、経常利益3億円、当期純利益1億1千5百万円を見込んでおります。

なお、期末配当金につきましては、1株当たり4円を見込んでおります。